

生物科学学会連合 第13回連絡会議記録

日時：2005年3月10日（木）午前10時から12時15分

場所：学士会館第五会議室（東京・本郷）

出席者：城石 俊彦（日本遺伝学会） 河田 光博（日本解剖学会）
永田 和宏（日本細胞生物学会） 園池 公毅（日本植物学会）
大森 正之（日本植物生理学会） 大隅 典子（日本神経科学学会）
片岡 舒康（日本生物教育学会） 石渡 信一（日本生物物理学会）
八杉 貞雄（日本動物学会） 武田 洋幸（日本発生生物学会）
菅原 美子（日本比較生理生化学会） 菊山 榮（日本比較内分泌学会）
山本 正幸（日本分子生物学会） 松木 則夫（日本薬理学会）

オブザーバー

浅島 誠（日本発生生物学会・日本動物学会会長）

永井 裕子（日本動物学会事務局長）

（欠席）：日本進化学会 日本生態学会 日本神経化学会 日本生化学会 日本生理学会
日本免疫学会

（敬称略、学会名五十音順）

配布資料：0. 第13回連絡者名簿

1. 第12回連絡会記録（案）
2. 「動物の輸入届出制度」に関する要望書
3. 国際生物学オリンピック日本委員会組織図（案）
4. 国際生物学オリンピック・発起人会開催に至る経過
5. 学術誌の電子遡及化の予算について

司 会：山本 正幸（H16年度幹事）

1 第12回連絡会議記録の確認

原案通り承認された。

2 意見交換

これまで生物科学学会連合の事務局を学会事務センターに委託していたが、2004年の学会事務センターの破産に伴って、事務局不在の状態に陥っている。この機会に、今後の①連合の活動の方向性と②事務局のあり方について意見交換を行った。以下、代表的な意見を記す。

①今後の連合の活動の方向性について

役割について

- ・トップダウン型になる学術会議に対して、ボトムアップ的にライフサイエンス関係学会の意見を集約し、提言する。
- ・個々の学会が問題を感じた場合に、共同でサポートをする。

- ・文科省との折衝の窓口となる（以前は課長クラスも連絡会に出席していた）。
- ・強制力のないゆるい連合（自然発生的な連合）。

問題点など

- ・連絡会議には本来学会長が出席することになっているので、委員の交代が頻繁で継続性がない。
 - … 委員と事務局のある程度の固定化が必要ではないか。
- ・継続的な問題に対する取り組みについては消極的になっている。
- ・各学会の会員に連合の存在意義、連合会での決定事項などが伝わっていない。
 - … ニュース等（議事録ではなく）の発行が必要か？
- ・学会代表の参加であるが、決定が遅い。議題に対する賛否決定の持ち帰りは問題。
 - … 集まったらその場でなんらかの決定とアクションが伴う運営を期待。このためには議題等をあらかじめ周知しておく必要がある。
- ・年2回の開催では迅速に対応できない場合がある。必要に応じて回数を増やす？
- ・存在意義を意識してもらうために会費をあげる（現行 5,000 円から 20,000 円くらいへ）？

対応：次回以降も引き続き協議する。

②今後の事務局のあり方について

生物科学学会連合の重要性を考えると、活動を積極的にバックアップするきちんとした事務体制をとることが急務である。浅島氏より、動物学会としては日本動物学会事務局を活用してもらってもよい、という申し出があった。これに対して、以下のような意見があった。

事務局の主な仕事としては：

会合の世話、議題の周知、議事録・ニュースの作成と配信、文科省への対応準備

事務局をどこにおくか：

- ・動物学会の申し出をうけて、事務局をお願いすることに賛成。
 - … 菊山氏、八杉氏、石渡氏
学会運営のノウハウを活用できる。
事務局はなるべく安定的に固定（連続性）したほうが良い
単なる事務処理以上のものを期待したい。
文科省対応、情報発信を求めるとしたら代行業者では難しい。
- ・中立性や負担の偏りを考えると一つの学会に事務をお願いするのは、できる限り避けたい。できれば、学会事務センターに代わる業者を探して委託したほうが良い。
 - … 大森氏、永田氏
学会事務センターに代わる業者としては、分子生物学会や生物物理学会が委託している（株）メディ・イシュ（委託費用年額 10 万円程度）が候補としてある。
歴史的には事務局の中立性が問題となり、学会事務センターに委託した経緯があった。
- ・中立の事務局が望ましいが、現実的には期限を切るなどして、当面動物学会事務局にお願いすべきかもしれない。
 - … 城石氏、大森氏
- ・単純な事務処理以上の役割がやはり必要。例えば、自前の事務局を持っている学会の間での持ち回りなども考えられる（山本氏）。しかし地理的条件を考えるとおのずと限定されてしまうであろう（大森氏）。

対応：以上のような意見を踏まえて、山本氏（現幹事）、大森氏（次期幹事）、浅島氏で後日協議し、当面の事務体制を決定する。

3 「動物の輸入届出制度」に関する要望書について

対応：個々の学会で賛同するか否かを決定して、3月末までに大隅氏へ連絡する。

4 国際生物学オリンピックについて

第1回の組織委員会に参加した浅島、山本両氏より現在の状況が説明された。

- ・これまで官（JST）主導で準備が行われてきたが、今回組織委員会が発足した。
- ・組織委員会の初会合には、招聘のあった学会長を中心に個人の立場で参加した。
- ・新聞等では学会が協力しているように報道されているが、正確ではない。
- ・学会の決議を待って順次団体会員として組織員会に加入、というスケジュール。会費について10万円／年という提案があり、高すぎるという意見が出された。

対応：近い将来、各学会に対して参加要請が正式に届くので、個々の学会で対応を検討する。その上で、連合として対応する必要があるれば連絡会で協議する。

5 学術誌の電子遡及化の予算について

永井氏より、平成17年度予算で学術誌の電子遡及化の予算（JST、6億円）が認められ、学術会議でその優先順位が決められる予定、という説明があった。また、生物科学連合として、日本の生物系学術誌で対象となるもの（英文誌のみ）を調査して学術会議に提出したい、という提案がなされた。

対応：各学会で調査（総ページ数など）して、永井氏へ報告する。

以上（文責：武田・山本）